

# 計画段階評価結果一覧

## 【福岡空港滑走路増設事業】

実施箇所 実施主体	該当基準	解決すべき課題等	達成すべき 政策目標	複数案との比較	対応方針	担当課 (担当課長名)
福岡空港 (福岡県) 九州地方整備局 大阪航空局	調査段階(平成15～21年)において、複数案の比較・評価及び検証を実施済	<p>(課題等)</p> <p>(1)ピーク時間帯を中心に混雑や遅延が常態化。</p> <p>(2)将来的にはさらに需給が逼迫すると予想されており、滑走路1本のままでは、将来の航空需要に対応できない恐れ。</p> <p>(3)滑走路が1本であるため、航空機トラブル等が発生した場合、復旧作業のために滑走路閉鎖し、遅延等が発生。</p>	<p>①空港の処理能力及び利便性の向上</p> <p>②安全・安心の確保</p> <p>③観光促進・地域経済の向上</p>	<p>「福岡空港の総合的な調査PIレポートステップ4(平成20年)」において、以下の通り比較。</p> <p>[案1] 滑走路増設案 &lt;西側配置(滑走路間隔210m)&gt;</p> <p>①処理能力 現況14.5万回→整備後18.3万回</p> <p>②アクセス利便性 現状と同じ(博多駅から5分)</p> <p>③社会環境 航空機騒音：騒音対策区域が拡大する可能性は小さい</p> <p>④建設 現地着工後の工事期間：約7年(用地買収、埋蔵文化財調査等の期間が別途必要) 概算事業費：約2,000億円 空港場内における主な工事：・滑走路、誘導路、エプロン等の整備 ・貨物地区、自衛隊地区等のセットバック</p> <p>[案2] 新空港案 &lt;三苦・新宮ゾーン&gt;</p> <p>①処理能力 現況14.5万回→整備後21.3万回</p> <p>②アクセス利便性 博多駅からの距離と所要時間：約17km、15～20分 福岡ICからの距離と所要時間：約19km、概ね20分</p> <p>③社会環境 航空機騒音：WECPNL75以上の市街化区域への抵触はない</p> <p>④自然環境 海浜に変形が生じる可能性がある。また、藻場、漁場、貴重生物、自然景観などに配慮する必要がある。</p> <p>⑤空港規模 全体用地面積(埋立面積)：約510ha 滑走路長×本数：3,000m×2本</p> <p>⑥建設 工事着工後の工事期間：約9年 概算事業費：約9,200億円</p>	<p>滑走路増設案を選定 (平成21年に選定)</p> <p>(理由) 事業費、空港へのアクセス利便性、自然環境への影響等について比較し、福岡空港の総合的な調査(平成15～20年度)、PI(パブリック・インボルブメント)の実施結果、福岡県・福岡市の意見等を踏まえつつ、総合的に判断。</p>	<p>航空局 航空ネットワーク部 空港施設課 (課長 長谷川 武)</p>

※本件については、調査段階(平成15～21年)において、PIの手法を取り入れつつ複数案の比較・評価及び検証を実施済。

※国土交通省所管公共事業の計画段階評価実施要領においては、第8経過措置の第3段落に該当。